

かきのみ園だより

<令和4年7月>

渋谷区山谷かきのみ園

夏と言えば……なあに？



施設長・園長 森山 未来

梅雨が、6月中に早々と開けてしまいました。偏西風が蛇行している影響だとか、ラニーニャ現象が続いて海水温が上昇しているからだとか、お空の事情は難しく今ひとつ分からない部分がありますが、雨の季節が終わり、一気に真夏に取って代わられてしまったことは体感することができます。近年の異常気象は、夏の勢いが他の季節を押し退ける印象もあり、日本の四季の概念を変えてしまったとも感じます。子供たちにとって、夏の遊びは思い切り発散できるものも多く、楽しさいっぱいの充実した時間になることは間違いありませんが、同時に、熱中症への対応も欠かせなくなっています。対策を講じつつ、夏ならではの遊びを心ゆくまで楽しめるようにしていきたいと思います。各ご家庭でも、十分に気を付けてお過ごしください。

さて、自分が担任をしていた当時、「夏と言えば、なあに？」と子供たちに尋ねてみたことがあります。アイスクリーム、セミ、かき氷、花火、プール……と、夏の定番とも言える答えが続く中、ある女の子が「くも」と答えました。その子の顔を見ながら、私も頭の中で『くも？』と、思い巡らしました。次の瞬間、頭の中に真っ青な空と真っ白な入道雲が浮かんできました。「わぁ！雲ね！」と言う私の目を見て、その子も目をキラリとさせてうなづきました。あの瞬間、女の子と私の頭の中に夏空と白い雲が同じように浮かんでいたはずです。何とも幸せな気持ちになりました。皆さんは、いかがでしょうか。「夏と言えば？」と、聞かれてどのようなものが浮かんできますか？

<夏と言えば 水遊び>

幼稚園も保育室も、楽しい水遊びの時間が始まっています。水の心地よさは暑い季節だからこそ感じられる特別なものです。でも、どの子も水が心地よく感じられるわけではなく、怖いと感じる子もいるはずですよ。遊びながら水への抵抗感が少しずつ薄れるようにしていきたいと思います。園で育てたいのは、水泳選手ではなくて、子供たちの心を潤す瑞々しい感性です。太陽の光が反射して水面がキラキラと揺れる様子から何を感じるでしょうか。思い切り水をすくい上げたときに指の間からこぼれる雫を眺めて子供たちは何を感じるでしょうか。お日さまを味方につけて、存分に水と戯れてほしいと思っています。

<夏と言えば 七夕>

7月7日の夜に天の川にかかる“かさぎの橋”を渡って、織姫（こと座のベガ）と彦星（わし座のアルタイル）が会うという話が中国から伝わり、七夕の行事が生まれました。かきのみ園の各学級でも七夕の飾りを作り始め、7日には持ち帰る予定です。七夕の夜には、ぜひご家族で子どもたちの願い事に耳を傾けて過ごしてみてください。都心のど真ん中、代々木の夜空にお星さまは輝いてくれるでしょうか。探してみたいと思います。

<夏と言えば 夏祭り>

私事になりますが、子供のころ、近所の盆踊り大会でひたすら踊ったことを懐かしく思い出します。母が、毎年大きくなる私の身丈に合わせて、姉からのお下がりである蝶の柄の浴衣を仕立て直してくれました。そのお気に入りの浴衣を着て盆踊りを踊ることが、年に一度の何よりの楽しみでした。“夏祭り”と聞くと、自分が着ていた浴衣、東京音頭のメロディー、和太鼓やチャンチキの音色、そして、町会の方が用意してくれた薄甘いぶどうジュース（氷で薄まってしまった…）の味がセットになって浮かんできます。

この2年間、コロナ禍による影響で地域の行事は開催を見合わせる傾向にありましたが、今年は、少しずつ再開するという情報も入ってきています。自分の住んでいる地域の方々とながらりをもつことは、子供たちが、多くのやさしい大人に見守られているという安心感にもつながります。ぜひ、参加してみたいかがでしょう。子どもたちの心に残る「夏」が、今年こそ、たくさんたくさんありますように…。